

ワールドカップ関連情報

2014 年 4 月 14 日付（W杯まであと 59 日）

アレーナ・ダ・アマゾン：テスト・イベント開催

アレーナ・ダ・アマゾンにおいて、W杯テスト・イベントとしてFIFAが義務付けている試合が、4月3日の19時半より開催された。試合はブラジル杯のレゼンジ対ヴァスコ戦で、入場者数は約3万3千人、試合結果は0対0の引き分けとなった。これまで行われた2回のイベントとは異なり、W杯開催準備委員会（COL）が清掃、選手送迎、観客の案内、音響・映像技術、芝生の品質管理、民間警備等主な運営責任を負い、またアマゾナス州及びマナウス市が交通整理、治安維持などに協力した。音響・照明設備の不備や自動改札の不具合などの問題が指摘されたが、それ以外においては関係者と観客から相対的に高い評価を得た。

苦情の例としては、会場内の清掃は行き届いていたものの、トイレの場所がわかりにくいことや、男子トイレの構造などが挙げられた。また、W杯公式戦は全席指定であるが、今回は自由席であったため、席を確保するために開場予定時刻の5時間前から人が集まり始め、遅れて到着した観客は家族・友人と共に座るための席を探すのが困難となった。開場時刻の遅れ（3時間前開場の予定が約2時間前となった）や列の乱れ、4ヶ所あるチケットコントロールのうち2ヶ所が閉鎖（その後、内1ヶ所は再開）されていたことにより混乱も生じ、アレーナ周辺では観客のゴミ等で不衛生な場所もあった。

一方、試合前後の交通渋滞は20時半以降解消され、懸念されていたほど深刻にはならなかった（交通規制ルートは下図参照）。前回のイベントでは利用を断念するほどの長蛇の列が売店に目立ったが、今回は許容範囲内でアテンドも改善された。ただし観客は、軽食（サウガジーニョ）の値段が前回の1個4レアルから6レアルに上がっていることに不満をもち、より一層の改善を求めている。その他、携帯電話の通話・通信障害が生じた。右は通信業者によるインフラ設備が完了していないためであり、今後改善されると関係者側は説明している。身体障害者・高齢者・肥満者・妊婦には指定場所（車利用の場合はヴィラ・オリムピカ前、バス利用の場合はコンスタンチノ・ネリ通りとペドロ・テイシェイラ通りの交差点）からスタジアム入口までバスの送迎サービスが提供された。案内をするボランティアは200人にも上り、W杯での旅行者の期待に十分に答えられると評価された。

アマゾナス州保安局によると、今回の試合では2千人以上の州政府、市役所、連邦政府の警官並びに職員が警備などの任務に就いた。スタジアム内の警備は1回目・2回目のイベントとは異なり、軍警ではなく民間の警備員が行った。非常時に備え、警備に関する全てのオペレーションは、保安オペレーション統合センター（C i o p e s）とスタジアム内指令制御センターにてモニタリングが実施された。

COLが実施するテスト・イベントは今回が最後とされていたが、チアーゴ・パエスCOL運営責任者は、本イベントにて発覚した問題が解消されたかを確認するためのテスト・イベントをW杯前にもう一度行うことを示唆した。

イベント中のスタジアム内の様子 FOTO: ALFREDO FERNANDES / AGECOM



4月3日15時半以降の交通規制（赤線は通行止め、オレンジはバスのみ通行可）



出典： <http://www.copa2014.gov.br/>

【免責条項】記事はブラジル主要メディア及び公的機関ホームページからの公開情報を当館の責任でまとめたものです。できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連してご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、当館は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。